

平成19年2月14日
商務流通G
流通・物流政策室

「国際物流における電子タグの国際標準化」について

経済産業省は、電子タグの国際標準化機関（EPCglobal）と共同して、国際物流において幅広い活用が期待されているアクティブタグ（読取距離の長い電池付きの電子タグ）を標準化し、導入効果や課題の検証を目的とした実証事業を実施します。

1. 本事業は、国際物流で活用される電子タグの国際標準化を目的とし、国際標準化機関（EPCglobal）で検討中のアクティブタグに求められるビジネス要件について、香港－日本間の実際の海上輸送の環境下で実証実験を行い、導入効果や課題を明らかにするものです。
2. 具体的には、日米を代表するメーカーの提供する2種類のアクティブタグをコンテナに貼り付け、性能検証を行い、ビジネス要件を満たしているかを検証します。
3. また、香港と日本のIT企業がそれぞれ開発したネットワークシステム（EPCIS）を相互に接続し、電子タグから読み取った物流情報を国境を越えて関係者間でリアルタイムに共有し、その効果や有効性を検証します。
4. 本事業の成果を元に、国際物流における電子タグ国際標準化の検討を加速させます。また、日本企業の技術やビジネスモデルを国際標準に反映させることで、電子タグの国際標準化における日本の存在感が増すことが期待されます。

（本事業の主要参加者）

輸出者：リーボックインターナショナル

輸入者：リーボックジャパン

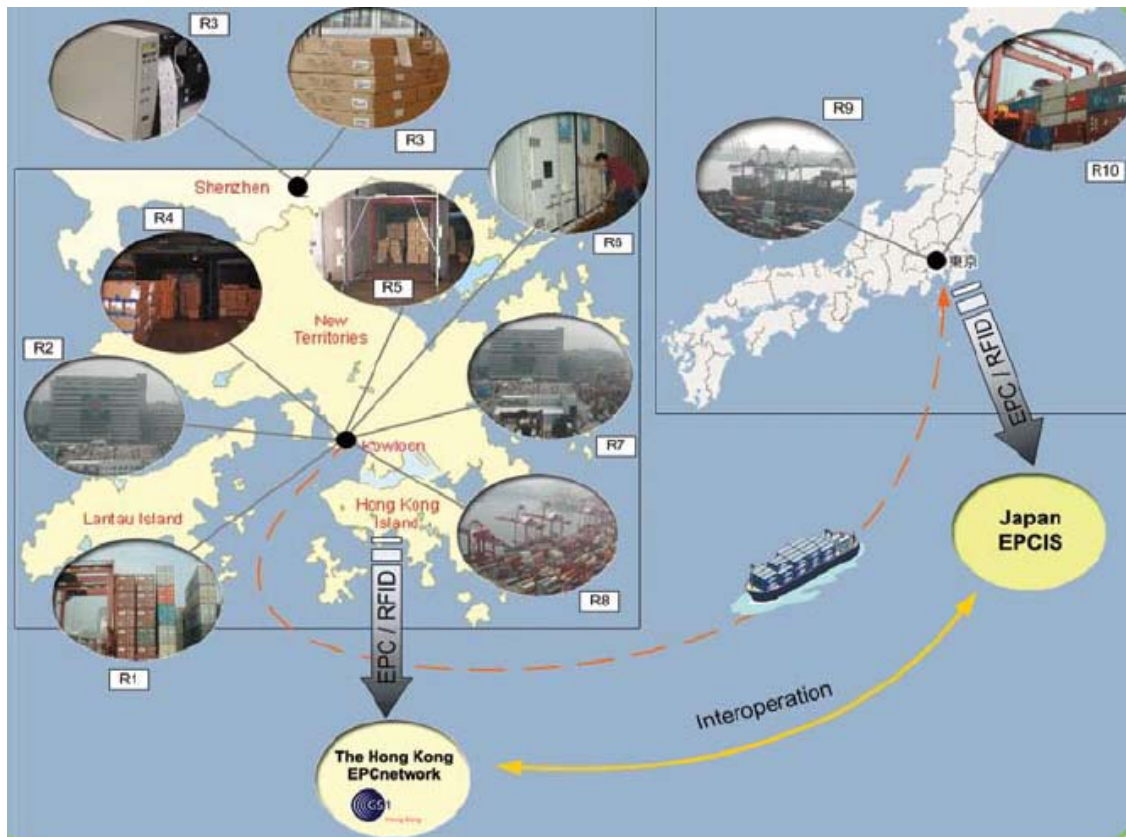
国際物流業者：DHL、マースクロジスティクス、日本郵船、シュナイダー、シェンカー

ITベンダ：MTI、野村総合研究所等

システム構築：NTTコムウェア、I I J、日本オラクル、日本ベリサイン、凸版印刷、トッパンフォームズ等

（本発表資料のお問い合わせ先）
商務流通G 流通・物流政策室
担当：浜辺、富田
電話：03-3501-0092(直通)

○事業全体イメージ



※ 香港－日本間の実際の国際物流現場(香港の港湾倉庫から日本のメーカー倉庫の間)の各ポイントで電子タグから読み取った物流情報を、国境を越えて関係者間でリアルタイムに共有し、その効果や有効性を検証

○ EPCglobal 物流会合 (TLS-IAG) の概要

EPCglobal は、ユーザーの実ビジネスにおける要求事項を満たす電子タグの国際標準化を推進するため、2003 年に設立された非営利団体。(世界的な流通業、物流業、IT 企業等が参加)。

物流分野では既に企業単位で電子タグの導入が進みつつあるが、電子タグを活用した国際物流を拡大していくには、国際標準化が不可欠。

このため、2005 年 11 月に国際大手物流業者 (DHL、マースク、APL、日本郵船、シュナイダー等) を中心として EPCglobal に物流会合を設立。年 3 回の国際会議と毎週の国際電話会議を通じて標準化の検討作業を進めている。

物流会合には日本からも多数の企業が参加しており、特に日本郵船が部会の共同議長を務めるなど、日本が主導的な役割を果たしている。

EPC: Electronic Product Code

TLS: Transportation & Logistics Services

EPCIS: EPC Information Services

TLS-IAG: Transportation & Logistics Services Industry Action Group